

# 『東北圏だより』



世界に貢献する医療関連産業の一大集積地を目指しています！

福島県

福島県には、数多くの医療機器製造業の生産拠点が立地し、その生産を支える関連企業が集積しています。震災以降、本県では復興をリードする新産業として、医療関連産業の更なる集積に向け、平成28年11月に医療機器の開発から事業化までを一体的に支援する国内初の拠点「ふくしま医療機器開発支援センター」を開所しました。

[ふくしま医療機器開発支援センターの全景]



## ふくしま医療機器開発支援センター

ものづくり企業の医療機器分野への新規参入や医療機器メーカーの更なる発展、医療を支える人材の育成・訓練など多岐にわたる支援を行っています。

### [機能1：安全性評価]

想定される様々な使用環境や操作方法等による医療機器の強度や耐久性、誤作動発生の有無等を電気・物理・化学等の様々な側面から評価することができます。

また、人体に埋め込んで使う医療機器については、大型動物(実験用ブタ)を用いた生物学的な評価を行います。

[電波暗室]

医療機器が放出する電磁波を測定



[模擬手術室]

医療関係者のトレーニング、医療機器試験



### [機能2：人材育成・訓練]

医療関係者が各種手技トレーニングを行える模擬手術エリア（ものづくり企業の医療機器の開発・改良、ユーザビリティ評価での利用も可能）、看護トレーニングが行える高機能患者モデル等の各種シミュレーター等により医療・介護人材の育成・訓練が行えます。

### [機能3：コンサルティング・情報発信]

市場・ニーズの目利きや設計・評価のコーチング、法令・企画のコンサルティング、販路拡大や海外展開などのアドバイス等、企業ごとの個別支援により医療機器分野への新規参入・事業化、機器の開発・改良に対応しています。

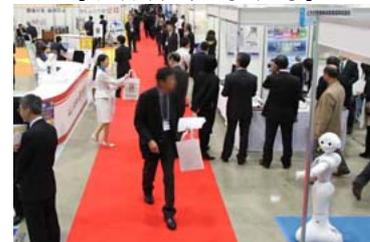
[コンサルティング・情報発信]



### [機能4：マッチング]

医療機器設計・製造展示会や最新技術セミナーを行う「メディカルクリエイションふくしま」、企業間の情報交換の場である「福島県医療福祉機器産業協議会」の開催を通じて、ものづくり企業の優れた技術と事業化のマッチングをバックアップしています。

[メディカルクリエイションふくしま]



今後、本県では当センターを核に企業、医療関係者、大学等の皆様とともに世界に貢献する「医療関連産業の一大集積地」を目指してまいります。

今回紹介した施設や利用例は一例で、ニーズに応じて様々な利用方法に柔軟に対応しています。また一般の方向けに見学会等も開催していますので、以下の窓口まで気軽にお問合せください。

ご利用・お問い合わせ

一般財団法人ふくしま医療機器産業推進機構

TEL : 024-954-4011 FAX : 024-954-4011

Email : [centre@fmdipa.or.jp](mailto:centre@fmdipa.or.jp) HP : <http://fmddsc.jp>

## 「農福連携推進東北ブロックシンポジウム」の開催について

東北農政局

全国及び東北地方における農福連携に関わる情報や取組を紹介し、また農業と福祉のつながりを広く展開するためのきっかけづくりとして、平成30年1月25日（木）に、東北農政局主催による「農福連携推進東北ブロックシンポジウム」を開催しました。

本シンポジウムには、主に障がい者の就労支援に取り組む福祉団体や農業者、行政機関など約120名の皆様にご参加頂きました。



▲会場の様子

はじめに、「農業分野における障がい者就労の展開方向」として、特定非営利活動法人HUB'sの林正剛理事長から、農業従事者の減少や高齢化、耕作放棄地の拡大など日本の農業の現状を踏まえつつ、ご講演をいただきました。

農家側の抱える労働力不足解決の一助となるため、障がい者側では農家側の期待に応えられるレベルの技術を持ち、農業への就労を目的とした農福連携の考え方を持つことが必要であり、その先には、障がい者が地域農業にしっかりと役割を持ち、地域づくりの担い手としても必要不可欠な存在になることが理想であるとの提言でした。

次に、東北厚生局、宮城労働局、東北農政局からの施策紹介を経て、農業に取り組む福祉団体である「非営利型一般社団法人かたつむり」（岩手県大船渡市）と、福祉施設と農家のマッチング組織である「三八地域障害者農業就労促進ネットワーク」（青森県八戸市）から取組事例を発表していただきました。

かたつむりの大西智史常務理事からは、東日本大震災の被災からの立ち上がり、自らの農業生産とそれらを加工する6次産業の取組や課題について、また、三八ネットワークの沼田智美事務局長からは、農業を足掛かりとした就労を通じて障がい者の社会参加が促進され、ともに地域を支えていく存在となるような、協働のまちづくりを目指している旨を発表いただきました。

最後に、林氏のコーディネートで、事例発表者のお2人方に加え、「NPO法人ワーカーズコープ こころード」（福祉団体）の米谷圭子氏と「ユッキーファーム」（農業者）の佐々木幸雄氏の4名のパネリストでパネルディスカッションを行いました。

マッチング組織、福祉団体、農業者といった、パネリスト各々の立場から、取組当初の感想を始めとして、農福連携を実践する中の工夫、また農福連携の良い点や難しい点などについて議論がなされました。

去る2月14日（水）、仙台市内において、『第32回東北圏広域地方計画協議会検討会議幹事会』が開催されました。

まず、東北圏広域地方計画のフォローアップ結果の取りまとめ状況について、事務局より取組状況（案）の説明をさせていただいたほか、今後の作業スケジュール等の確認を行いました。

また、東北圏における2つの先行的プロジェクトについて、事務局より平成29年度検討成果の中間報告を行いました。

計画のフォローアップ結果については、年度内の公表を予定しております。



▲幹事会の様子

### 編集後記

東日本大震災から7年が経過しました。震災で犠牲になられた方々のご冥福を心からお祈りいたします。今年度もたくさんの方々から寄稿を頂戴いたしました。至らないところがありご不便をおかけしたこともあったかと思いますが、1年間ありがとうございました。年度末お忙しいことと存じますが、お体ご自愛ください。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：[thr-kou-suishin2@mlit.go.jp](mailto:thr-kou-suishin2@mlit.go.jp) ※メールアドレスが変わりましたので、ご注意ください。